

# 科学技術イノベーション政策プラットフォームの構築に関する調査

政策研究大学院大学 教授 隅藏 康一

## 1. 調査研究の背景と目的

### (1) 我が国科学技術力の再生への挑戦

この20年、我が国は経済が停滞する中で科学技術力が80年代、90年代に比べて先進諸国の中で劣後の位置に後退しつつある。

このような現状に対し産・学・官の科学技術関係者は科学技術力を再生するための様々な努力を重ねてきているが、今日、科学技術力の低迷に歯止めがかかり、将来の発展への展望を開くに至っているとは言い難い。如何にこの状況から脱却して科学技術力による社会発展への道を切り開くか、我が国が挑戦すべき大きな課題である。

### (2) 科学技術イノベーション政策に対する新たな要請

近年、国際社会の場で大きな課題となっている地球環境保護や、国家安全保障などの問題は、民間主導の市場主義だけでは解決が難しく、諸外国において改めて国の役割を見直す動きが大きくなっている。科学技術分野においても科学と産業・経済・社会との関わりを一層重視し、研究開発をイノベーションに結び付けるグローバルイノベーションエコシステムの構築に向かいつつある。

こうした動きの中で、我が国が人類社会に貢献しうる先進国としての地位を維持、発展させるために、科学技術イノベーションシステムの現状を見直し、政策担当者と現場の専門家の対話により新しい政策の在り方を議論する科学技術イノベーション政策プラットフォーム（以下、政策プラットフォームという）構築の必要性が政策研究大学院大学政策研究院において提言された。

### (3) 調査研究の目的

本調査研究は上記の提言を踏まえて、政策プラットフォームを構築する上での課題を見出すことを目的として検討会を開催し、プラットフォームのひな型となる試行的な議論を行った。

## 2. 調査研究体制

### (1) 作業チーム

研究代表	隅藏康一	政策研究大学院大学教授 研究・イノベーション学会理事
ファシリテーター	小出重幸	日本科学技術ジャーナリスト会議理事
ファシリテーター	田中和哉	政策研究大学院大学政策研究院 リサーチフェロー

	有本建男	政策研究大学院大学客員教授 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
	倉持隆雄	科学技術振興機構 研究開発戦略センター 副センター長
	永野博	日本工学アカデミー顧問
	菱山豊	徳島大学副学長 順天堂大学客員教授
コーディネーター	今村努	政策研究大学院大学政策研究院 シニアフェロー

## (2) 検討会の開催

大学・研究機関、学会、企業等各界の専門家の参加を得て検討会を開催し、政策プラットフォームの構築の課題及び取り上げるべき政策課題について議論を行った。

## 3. 調査研究の結果

### (1) 政策プラットフォームの基本的あり方

調査研究作業を通じて、どのような政策プラットフォームを構築すべきかについての基本認識を取りまとめた。以下にその要点を示す。

#### ① 科学技術イノベーションの政策領域の広がりへの対応

科学技術イノベーションは、科学研究による知識の獲得、新しい技術の開発と社会への実装、社会の諸課題の解決への貢献など、きわめて広い政策領域を包含している。このため、政策プラットフォームは科学と社会の関わりという視点から、分野、組織、世代の壁を越えて幅広く政策を議論する場とすべきである。

#### ② 政府との関係の在り方

我が国の科学技術イノベーションシステムは以下のような構造的な脆弱性を持っている。

- ア 我が国の科学技術イノベーション政策は専ら政府（各省及び CSTI）により企画、立案、推進されており、政府の政策機能を補完する多元的な議論を行う、科学アカデミーと呼べる機関が育っていない。
- イ 研究機関、大学、民間シンクタンク、経済団体等において科学技術イノベーションが議論されているが、特定分野の課題が個別に議論されるきらいがあり、総合性、多様性に欠け、社会への影響力が弱い。

一方、諸外国においては、米国の AAAS（American Association for the Advancement of Science）やヨーロッパにおける EuroScience など、政府とは別に政策を議論する場があり、それぞれ国の政策立案や推進に大きな影響力を持っている。我が国の科学技術イノベーションシステムの上述の脆弱性を克服するため、政策プラ

ットフォームは、政府とは独立に社会に開かれた多様なステークホルダーによって政策を議論する場とする必要がある。

### ③ 政策共創の場

政策プラットフォームは議論するだけでなく、行動につながる活動を行うことが重要である。このため、政策プラットフォームでは、科学技術イノベーションの現場専門家が自発的な議論を行うとともに、政策部局や関係研究機関、企業等とつながりを持ち、一緒に行動する政策共創の場とすることを目指すべきである。

### ④ 国際環境への積極的な対応

グローバルな課題に対する科学技術分野での貢献は今後の我が国の大きな課題であり、政策プラットフォームにおいて、欧米のみならずアジアを含めて国際社会へ積極的な発信を行う方策について議論すべきである。

### ⑤ 若い人材の参加

若い人材が、幅広い科学技術イノベーションの世界で分野、組織の壁を越えて自由活発に政策を議論できる場は限られている。政策プラットフォームはこの点を認識し、若い世代が参加しやすく、社会に情報発信する仕組みを持つ必要がある。

### ⑥ 人材育成への貢献

学生や若い専門家が政策プラットフォームに参加することにより他分野の専門家と触れ合うことを通じて、より広い視野を養うことが期待される。大学や企業など、関係する機関の協力で、政策プラットフォームを人材育成の場として活用することが望まれる。

### ⑦ 国民とのコミュニケーションの場

科学技術イノベーション政策が我が国の国家戦略として社会に位置づけられるためには、科学技術イノベーションに関する情報が広く国民に共有されることが極めて重要である。政策プラットフォームは、公正、公平な議論を行って社会に発信し、社会と対話することを通じて、社会の支持基盤を強くすることを目指すべきである。

## (2) 政策プラットフォーム構築の課題

政策プラットフォームを具体化するための課題の要点を以下に示す。

### ① 政策プラットフォームの運営を担う体制の確立

プラットフォームの具体的なプログラムの決定、テーマとスピーカーの選定などプラットフォームのコアとなる作業を行う専門スタッフ及び事務局体制を強化する。

### ② 政策プラットフォームの組織設計

政策プラットフォームの具体的な在り方を検討し、メンバーシップ、組織編成、運営ルールなどの設計を行う。

なお、政策プラットフォームは、管理型ではなく関係者が自由に交流する機能を重視すべきとの意見があり、今後の設計において留意する必要がある。

### ③ 関係機関とのネットワークの構築

政策プラットフォームは、議論の場のハブとして、大学、学会、関係機関、団体等の専門家をつなぐネットワークの構築に取り組む。

### ④ 財政的基盤の確立

当面は支援団体のサポートによって作業を続ける必要があるが、将来的には活動の独立性を保ちつつ、より長期的安定的な財源を確保すべく検討する。

## (3) プラットフォームで議論すべき基盤的、横断的課題

今日の科学技術イノベーション政策上、議論すべき課題は広範多岐にわたるが、本調査研究においては科学技術と社会とのかかわりの視点から、各セクター、各分野に共通する基盤的横断的な課題（人材の確保育成、科学インフラの整備、科学コミュニケーション、国際的な政策議論への貢献など）や長期的な課題について議論を行い、政策プラットフォームのアジェンダセッティングのための資料を取りまとめた。

## 4. 今後の取り組み

今年度の調査研究結果を踏まえて、政策プラットフォームの設計及び取り上げるべきアジェンダセッティングに関する実践的な調査検討を行い、政策プラットフォームの設立を目指す。

### (1) 政策プラットフォームの設計

政策プラットフォームに参加するメンバーシップとネットワークの管理、組織体制、運営規約、所要予算等について詰めた設計作業を行う。

### (2) 政策プラットフォームにおけるアジェンダセッティング

科学技術力強化、科学技術人材問題、国際的な視点からの政策見直し、科学技術イノベーション政策による地域発展、科学コミュニケーションなど今年度の検討会テーマについて深堀の議論を行うとともに、安全保障、サイエンスアカデミーのあり方などを含めて、科学技術イノベーション現場と政策部局による具体的なアクションにつながる議論を行う。